

早出幼稚園 平成29年度 学校評価結果

平成30年3月28日 早出幼稚園 学校関係者評価委員会

- 29年度当初に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した重点項目
 - すこやか KIDS によって運動課題を明らかにし、リズム運動のメニューに生かし、その過程を保護者に伝える。
 - スマートフォンの普及により子どもが安易に扱う様子も見られるためルールやメディアとのかかわり方を保護者に伝える。
 - 園庭の整備、年少テラスのデッキ修繕

2. 取り組み

- すこやか KIDS で得られた情報をもとに、リズム運動を工夫しプログラムを再編した。特に体幹やバランス感覚に注目して実践する。発表会においては、子どもの育ちがわかるように保護者に伝えた。
- すこやか KIDS による家庭生活の調査でメディアとのかかわりかたに課題のある家庭には個別に指導をした。家庭の理解も得られ改善が見られた。講演会では家庭防災を通して、子どもが身に付けておくべき安全への意識においても体験が重要であるというテーマとした講演会を行い、好評であった。
- 園庭の整備、年少クラスデッキの修繕を完了した。

3. 関係者評価委員会での意見

- 子どもがすべきことに対する親の意識向上が必要。安全面の観点より送迎の際に園のフェンスを登っていたり、カバンをすぐに持っしまい子どもが駐車場へ走りこんでくるなどの姿が見られる。
- 経験年数の少ない先生も親への伝達の方法など一定の基準が必要。
- インフルエンザなどの流行時には食育活動ではマスクを着用すべき。

4. 今後取り組むべき課題と対策

課 題	対 策
(1)家庭教育の向上のために、クラスだよりや園だよりを通じて、家庭で行うべきことを丁寧に伝える。子ども理解を深める。	安全面を中心に参観会やクラスだよりなどを通して情報を伝える。またそのことにより子どもの成長にどんなプラスがあるかも同時に伝える。 保護者の保育参加を促進させる。
(2)経験年数の少ない先生において、気教育要領の理解をすすめるとともに、保育のねらいを通して子どもを育てている自信を身に付けるよう園内研修を行う。	園内研修を通して、教員同士が教育要領について話し合う機会を設ける。 指導案の書き方の指導を通して、保育の「ねらい」の重要性の理解を深める。
(3)食育活動などインフルエンザなどの流行時には配慮すべき。	疾病への対策をわかりやすく保護者に伝えるとともに実践をする。